

2021年12月果実概況

寒暖の変動が大きく、日本海側を中心に大雪。西日本太平洋側は高気圧の影響で多照だった。

12月は比較的晴れの日が多いが、気温は旬を追うごとに平年よりやや低くなった。降水量は平年並みから若干少ないものの、西～東日本の日本海側と北日本は寒波により雪の降る日が多く、中下旬から一気に気温が下がると、北九州も雪が降った。

12月果実全体の入荷量は前年比92%、価格461円(107%)。12月の販売の中心となるみかんはほぼ前年並み、いちごは・りんご・いちごであるが、みかん・いちごは前年並みの入荷量だが、りんごは前年に比べ少ない。また、柿の入荷量も前年に比べ少なく、生果の切り上がりも早くなった。西洋梨においても、中下旬以降は減少傾向に入る。上旬はギフト需要があるものの、荷動きは鈍く、中旬から引合いが出始めた。

みかん類は、入荷95%、価格291円(104%)。販売の中心は上旬の「早生みかん」から、中旬に入り「普通みかん」に切替わった。みかん類総体では、静岡産は肥大順調であったが、愛媛・九州産は小玉果が予想外に多く、販売に工夫が求められた。「早生」「普通」とも食味は良く、イタミ発生も少なかった。主要アイテムであるりんご類、いちご類が少ないこともあり、みかん類は販売堅調であった。

りんご類は、入荷76%、価格426円(135%)。12月は「サンふじ」中心の販売となった。主力青森産は2割減、山形・岩手・長野産は4割以上も少なく、年末まで絶対量不足の状況が続いた。12月上旬はギフト需要の引合いはあったが、10月以降高値続きのため、りんご類総体の価格は大幅高となるも荷動き自体は鈍かった。

西洋なし類は、入荷68%、価格556円(137%)。山形産「ラ・フランス」は不作で少なく、主要銘柄の販売は20日前には終了を迎えた。新潟産「ル レクチェ」は少ないままだが、止市まで入荷した。ギフト需要の品薄高に仕入れを控える買参人も見受けられた。

ぶどう類は、入荷96%、価格2,289円(104%)。ぶどう類のうち7割を占める長野産「シャインマスカット」の冷蔵品は入荷状況も安定しており、業務湯要ではいちごの代替品としての引合いがあり、また輸出向けの動きもあり。長野産「シャインマスカット」に限ると入荷微増ながら価格前年並みと販売堅調であった。

いちご類は、入荷84%、価格2,315円(111%)。関東産「とちおとめ」は生育前進傾向にあり、12月中旬まで潤沢な出回り量があったが、月後半の急な冷え込みから下旬は一転して入荷停滞となった。西日本は天候不順続きで、福岡産「あまおう」はスタート時から入荷伸び悩み、12月に入っても数量回復せず少ないまま。いちご類総体では、クリスマス需要期に絶対量不足し、20日前後に相場急騰したが下げ足も早かった。

メロン類は、入荷102%、価格1,115円(116%)。アールスメロンは各産地とも生育は概ね順調。熊本産は作付減少から入荷微減となったが、静岡・高知産ともに出回り順調。アールスメロンは年末年始需要の引合いもあり、入荷微増も単価高と順調な販売となった。

干し柿は、入荷95%、価格2,541円(109%)。長野産「市田柿」は小玉傾向であるも入荷微増。前年潤沢だった福島産と山形産は原料柿の不作で大幅減、山梨産も不作ながら年末年始需要に向け出荷意欲も高く、やや減少にとどまる。富山産は2年続きで順調入荷するなど、入荷状況は産地によりまちまち。数量の増減はあるも、他の品目が不足感が強まる中、干し柿は安定した入荷で引合いあり、入荷微減ながら価格1割高としっかり。